

豊田工業大学 入学式 学長式辞

本日、豊田工業大学にご入学・ご進学になられた皆さんに、心から歓迎の意を表します。おめでとうございます。学び舎として本学をお選び頂き、有難うございます。ご家族の皆さまも、おめでとうございます。本年度に、入学、編入学、あるいは進学をされて、本学のお仲間に加わられた方々は、学部1年96名、学部3年4名、修士1年50名、そして博士1年4名の皆さんです。

大学生活は、皆さんがやがて社会人として活躍するための大切な助走期間です。学修、研究、そして課外での諸活動を通して、社会人として世界に貢献してゆくための力を十分に鍛錬して頂きたいと願います。大学の主役は学生の皆さんですから、皆さんの活動が本学の活力の源泉です。念のために申しますが、大学での活動の主目的は、良い就職先を探すことではありません。ご自身の能力を本質的に伸ばすことです。これができれば、皆さんには、おのずと広範な未来が開かれます。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として、1981年に開学しました。以来、関連企業の皆様からのご支援に支えられ、本務である教育と研究に関し自由で闊達な活動を展開して参りました。2020年夏にはキャンパスリニューアルが完了し、教育と研究のファシリティが刷新されました。2021年には開学40周年を迎えています。この間のご関連の皆様方からのご支援とご鞭撻に、深く感謝申し上げます。

さて、皆さんは、本学において、学修と研究の活動を展開されます。学部における1年から3年次までは学修活動が、4年次は研究活動が中心となります。実は、この二つの活動は繋がっているのです。学修に於いて獲得する「知識」は、「記憶」するものではなく「理解」するものです。「理解」とは、たとえば、「帰結に対応した理由を自ら手繰りつつ深く考えて両者の繋がりに納得する」ということです。大学での学修では、科目内のみならず科目を越えた複数の項目が互いに連関しています。これらを体系的に「理解」してはじめて、知識は活用できる状態になるのです。

知識を記憶ではなく理解へと昇華させる過程において、「論理的思考力」という「汎用力」が鍛錬されます。理解へと昇華させた知識をこの論理的思考力を駆使して束ねることで、新たな発想つまり独創的な発明も可能になります。先達なら既に理解している教科書の内容も、はじめて学ぶ皆さんには未知なので、記憶ではなく理解を追求する学修活動は正に未知への挑戦であって、探究活動なのです。つまり、この学修態度の繰り返しは、「探求力」そして「研究力」をも涵養しているのです。これらの力も「汎用力」です。学修、レポート作成、発表、グループワーク等、学修での諸活動は、論理的記述力や協働力など、別の「汎用力」も培ってくれます。

工学は、成果を社会で使って欲しいという「意思」を持った学術です。つまり、工学の成果は社会を直接変え得るのです。歴史的にも社会の大変革を起こした技術は多数あります。工学に携わる私たちには、「成果が創る未来を想像する力」と「未

来社会に責任を持つ力」とが求められます。これらを身に付けて頂くために、本学にも、専門科目の他に、人文学、社会科学、語学、健康・体力学、等々の科目が用意されています。本学では、2年次前期までは皆さん全員が専門を決めずに、上記リベラルアーツ科目と工学基礎科目を学びます。また、実験・実習科目、企業実習、海外語学研修、海外研究実習、国際プラザ活動、寮生活、4年次の充実した卒業研究等々は、「実践力」を重視している本学に蓄積された重要な特徴です。

学部は、基本的に「学修」に重きを置き、大学院修士・博士課程は「研究」に重きを置きます。研究活動では、実験、計算、データ整理、論文執筆、国際会議発表、仲間との協力、学外との協働、といった様々な活動を展開します。これらによって、論理的思考力の他に、記述力、プレゼン力、計画力、忍耐力や思いやり、課題設定力や課題解決力などの「汎用力」も涵養されます。つまり、大学での学修活動と研究活動は、皆さんが技術者・研究者となるのみならず人としても成長するために設けられた、人材育成を駆動する「両輪」なのです。サークル活動、ボランティア活動など、皆さんがなさる課外での活動も、人として成長なさる上で大切な経験です。

ところで、本学では、これまで、15年先を見据えた長期ビジョンを策定して、実現のための具体的な計画を5年毎の中期プランに纏め、教育、研究、運営での改善を進めてきました。実は、本日は新長期ビジョンを開始する初日なのです。3年に及ぶ検討の結果である本長期ビジョンでは、人材育成という観点では「強みである高度な実践力に加え、本質を掴む論理的思考力・逞しい創造力・豊かな人間力を兼ね備えた国際産業リーダーの育成」と記しました。また、研究展開という観点では「世界レベルの研究成果創出とその社会実装による地球課題の解決」と記しました。

これらの「人材像」「研究像」を実現するために、「特徴・強みの錬磨と新たな挑戦」を行います。上述したような本学に蓄積された様々な特徴と強みはさらに磨いて活用しつつ、人材像実現のための新たな挑戦としては「個を輝かせる」とし、研究像実現には「研究成果を社会実装に繋げる研究者集団の構築」と掲げました。

具体的には、皆さんには深く考えて体系的な理解に至る学修法に拘って頂き、「理解へと昇華した知識の束」と「論理的思考力」によって「課題発見力・解決力」も育成して、専門分野での活躍のみならず地球課題にも思いを馳せずにはられない地球市民へと成長して頂きたいと願います。教員は、講義、演習、実習等の場面で、皆さんが理解の追求と汎用力の涵養とをやり易くなる学修指導法を磨いてゆきます。学生の皆さんのご意見も伺いつつ、この学修法・学修指導法を練り上げて「豊田工大メソッド」として形成することが本ビジョン実現の基盤です。教養教育等も拡充し、異文化体験の機会提供など、人間力の育成も図りたいと考えています。ここで、上述した種々の「汎用力」には、所謂「社会人基礎力」が含まれています。

研究面では、「独創性」「有用性」を合わせ持った研究テーマを設定し、地球課題の解決に資する活動を展開します。皆さんには、理解に至る学修の蓄積で獲得した「探究力／研究力」を発揮して、卒業研究、修士研究、さらには博士研究において、

地球課題の解決に一役買って頂きたいと思います。教員は、皆さんが研究活動を通して種々の「汎用力」「社会人基礎力」を獲得できるように、研究指導法に磨きをかけてゆきます。

本学は、諸活動の原理を端的に表現するフレーズ「タグライン」を作りました。「進むなら、足跡のない方へ」です。建学の理念である豊田佐吉翁の遺訓「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」に通じ、新規ビジョンの思いとも整合しています。つまり、帰結に対応した理由を手繰りつつ深く考えて理解に至る学修は、皆さんにとって未知への挑戦ですから、毎日が「進むなら、足跡のない方へ」の実践です。独創研究遂行における熟考は、正に「進むなら、足跡のない方へ」の挑戦です。皆さんが、「学修」「研究」そして「独自の課外の諸活動」においても、この「タグライン」に整合した行動を採って頂くことで、「様々な社会的事象にも自ら考えて行動することが習い性となった地球市民」へと成長なさるよう願っています。

さて、中国は唐代の詩人であり官吏でもあった白居易は、玄宗皇帝と楊貴妃の悲劇を詠んだ「長恨歌」で有名ですが、こんな漢詩も残しています。「曾て太白峰前に於いて住み 數しば仙遊寺裏に到り來る 黒水澄める時 潭底出で 白雲破るる處 洞門開く 林間に酒を暖めて紅葉を焼き 石上に詩を題して緑苔を掃う 惆悵す旧遊復た到る無きを 菊花の時節 君が廻るを羨む」。白居易が、以前に暮らした居処の近くにあった仙遊寺というお寺を懐かしんで作った詩です。

皆さんが社会人となって世界で活躍される頃、皆さんにとっての本学が、白居易にとっての仙遊寺のように、素晴らしいキャンパスで、楽しく過ごし、良く学んだ、懐かしい場所だとの記憶にあるよう、「進むなら、足跡のない方へ」の思いを持って、学修、研究、課外活動に取り組むように願います。私達も精一杯応援致します。

あらためまして、ご入学・ご進学、おめでとうございます。

2024年4月1日

豊田工業大学 学長 保立和夫